

研 修 区 分 表

平成26年3月3日作成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通 学	通 信	実 習	計	
1 職務の理解 (6時間)	6	—	—	6	(到達目標) 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
(1) 多様なサービスの理解	3	—	—	3	(講義の内容) ・ 多様なサービスと介護職の仕事 ・ 介護職のキャリアパスの全体像 ・ 介護職のOJT・OFF-JTの実際
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	—	—	3	(講義の内容) ・ 介護職の仕事の内容や働く現場の理解 ・ 現場経験のある講師の体験談 (演習の実施方法) * 特別養護老人ホームと訪問介護事業所を例に職業としての介護を紹介し、介護職のイメージについて話し合う。
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	9	—	—	9	(到達目標) 介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点およびやってはいけない行動例を理解している。
(1) 人権と尊厳を支える介護	4	—	—	4	(講義の内容) ・ 人権と尊厳の保持 ・ ICF ・ QOL ・ ノーマライゼーション ・ 虐待防止・身体拘束禁止 ・ 個人の権利を守る制度の概要
(2) 自立に向けた介護	3	—	—	3	(講義の内容) ・ 自立支援のための介護方法 ・ 介護予防 (演習の実施方法) * 自立支援に向けた介護を目指すに当たり、できる行為を増やす介護の「意欲を高める支援」について、グループで話し合う。
(3) 人権に関する基礎知識	2	—	—	2	・ 人権に関する基本的な知識
3 介護の基本	6			6	(到達目標) 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクと苑対応策のうち重要なものを理解している。 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。

(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	—	—	2	(講義の内容) ・ 介護環境の特性 ・ 介護の専門性 ・ 介護に関わる職種の機能と役割 (演習の実施方法) * 多職種の情報を共有する事が、利用者にとどのようなメリットがあるのか、話し合う。
(2) 介護職の職業倫理	1			1	(講義の内容) ・ 介護職の職業倫理
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	—	—	2	(講義の内容) ・ 介護における安全の確保 ・ 事故予防・安全対策 ・ 緊急時に必要な知識と対応方法 ・ 感染症対策
(4) 介護職の安全	1			1	(講義の内容) ・ 介護職の心身の健康管理 (演習の実施方法) * 感染症予防のための正しい手洗いの方法
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9			9	(到達目標) 介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
(1) 介護保険制度	3	—	—	3	(講義の内容) ・ 介護保険制度創設の背景と目的・動向 ・ 介護保険制度のしくみと基礎的理解 ・ 介護保険制度の財源、組織、団体の機能と役割 ・ 医療保険制度の概要 ・ 年金保険制度の概要 (演習の実施方法) * 介護サービスを利用するまでの手続きを図式化し、申請方法、サービス利用までの経過をシュミレーションする。
(2) 医療との連携とリハビリテーション	3	—	—	3	(講義の内容) ・ 高齢者の服薬と留意点 ・ 経管栄養と、吸引、吸入、浣腸など ・ 健康チェック ・ 訪問看護ステーション ・ リハビリテーション医療の意義と役割 ・ リハビリテーション医療の過程 ・ 訪問・通所・地域リハビリテーション
(3) 障害者総合支援制度およびその他の制度	3	—	—	3	(講義の内容) ・ 制度創設の理念・背景と目的 ・ 制度の仕組みと基礎的理解 ・ 個人の権利を守る制度の概要 (演習の方法) * 誰もが障害者になりうることを学び、社会保障制度を、日常生活の中で、活用できるところを話し合う。
5 介護におけるコミュニケーション技術	6			6	(到達目標) 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者と

					して最低限取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。
(1) 介護におけるコミュニケーション	3			3	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションの意義と目的 ・ コミュニケーションの手段と技法 ・ 利用者・家族への対応の基礎知識 ・ 利用者・家族への対応の実際 ・ 利用者の状況・状態に応じた対応 (演習の実施方法) * 対面する位置や距離について、それぞれの空間に立ち、非言語的コミュニケーションについての理解を深める。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3			3	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 記録に夜情報の共有化 ・ 報告・連絡・相談 ・ コミュニケーションを促す環境 (演習の実施方法) * グループに分かれて、模擬カンファレンスのロールプレイングを行なう。
6 老化の理解	6			6	(到達目標) 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3			3	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 老年期の発達と心身の変化の特徴 ・ 心身の機能の変化と日常生活への影響 (演習の実施方法) * 老いに伴う身体的機能の変化について、図（体の絵）に書き込みながら、理解を深める。
(2) 高齢者と健康	3			3	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の疾病と生活上の留意点（外科系） ・ 高齢者に多い病気と生活上の留意点（内科系）
7 認知症の理解	6			6	(到達目標) 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解している。
(1) 認知症を取り巻く状況	1			1	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアの理念・視点
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2			2	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の概念と原因疾患とその病態 ・ 原因疾患別ケアのポイントと健康管理 (演習の実施方法) * グループに分かれて、「もしも、自分が認知症になったら」と題して、話し合う。
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2			2	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活障害、心理・行動の特徴 ・ 利用者への対応 (演習の実施方法) * 事例を通して、認知症の人の出すサインや思いなどを、話し合う。
(4) 家族への支援	1			1	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族との関わり方・介護負担の軽減

8 障害の理解	3		3	(到達目標) 障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。
(1) 障害の基礎的理解	1		1	(講義の内容) ・ 障害の概念と ICF (障害者福祉の基本理念)
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1		1	(講義の内容) ・ 肢体不自由 ・ 内部障害 ・ 視覚障害・聴覚障害 ・ 音声・言語・咀嚼機能障害 ・ 精神障害 ・ 統合失調症 ・ 躁うつ症 ・ 神経症性障害 ・ アルコール依存症 ・ 知的障害 ・ 発達障害 ・ ダウン症 ・ 高次脳機能障害
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1		1	(講義の内容) ・ 家族の心理、家族への支援 (演習の実施方法) * 事例に基づき、障害の受容のプロセスをグループに分かれて、話し合う。
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	69	6	75	(到達目標) 介護技術の環境となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域での生活を支える介護技術や知識を習得する。
【基本知識の学習】 (1) 介護の基本的な考え方	2		2	(講義の内容) ・ 理論に基づいた介護 ・ 法的根拠に基づく介護 (演習の実施方法) * なぜ、専門性のある介護が必要なのか(我流の介護が良くないのか)を話し合う。
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3		3	(講義の内容) ・ 学習と記憶に関する基礎知識 ・ 感情と意欲に関する基礎知識 ・ 自己概念と生きがい ・ 老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6		6	(講義の内容) ・ 健康チェックとバイタルサイン ・ 骨・関節・筋肉に関する基礎知識 ・ 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・ 自律神経と内部器官に関する基礎知識 (演習の実施方法) * バイタルチェックの血圧測定を、実践してみる。 * ボディメカニズムを考慮した安定沙汰姿勢について、自分のからだを使って理解する。

【生活支援技術の学習】 (4) 生活と家事	3		3	(講義の内容) ・ 生活と家事 ・ 家事援助の基礎知識と生活援助 (演習の実施方法) * 「一人暮らし」の援助を想定して、グループで話し合う。
(5) 快適な居住環境整備と介護	3		3	(講義の内容) ・ 快適な居住環境に関する基礎知識 ・ 介護保険による住宅改修 ・ 福祉用具に関する基礎知識 (演習の実施方法) * 高齢者、障害者特有の居住環境整備について、事例に基づき、住宅改修の実際を検討する。
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	(講義の内容) ・ 整容に関する基礎知識 ・ 整容の支援技術 (演習の実施方法) * 衣服着脱の技術（グループにて、モデル・介助者になり演習する） * 口腔ケアを実際にやってみる。
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	(講義の内容) ・ 移動・移乗に関する基礎知識 ・ 移動・移乗のための用具と活用方法 ・ 負担の少ない移動・移乗と支援方法 ・ 移動と社会参加の留意点と支援 (演習の実施方法) * ベッドの上での体位交換 * 車いすの操作と介助方法 * 歩行の介助（杖、アイマスクの着用）
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	(講義の内容) ・ 食事に関する基礎知識 ・ 食事環境の整備と用具の活用方法 ・ 楽しい食事を阻害する要因と支援方法 ・ 食事と社会参加の留意点と支援 (演習の実施方法) * 食事介助の実際 * とりみを利用した水分摂取 * 嚥下体験と対応方法
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	(講義の内容) ・ 入浴と清潔保持に関する基礎知識 ・ 入浴と整容の用具の活用方法 ・ 楽しい入浴を阻害する要因と支援方法 (演習の実施方法) * 入浴介助の実際（片マヒ等の浴槽での介助） * ケリーパッドを利用した洗髪介助 * 足浴の介助
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	(講義の内容) ・ 排泄に関する基礎知識 ・ 排泄環境の整備と用具の活用方法 ・ 爽快な排泄を阻害する要因と支援方法 (演習の実施方法) * 排泄介助の実際、おむつの着脱の介助

(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6		6	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> 睡眠に関する基礎知識 睡眠環境と用具の活用法 快い睡眠を阻害する要因と支援方法 (演習の実施方法) * 寝室の環境設定、家具、就職支援仲次の衣服の選び方についてグループで話し合う。	
(12) 死に行く人に関したところとからだのしくみと終末期介護	4		4	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> 終末期に関する基礎知識 生から死への過程とところの理解 苦痛の少ない死への支援と他職種との連携 (演習の実施方法) * 死にいたる過程の事例をもとに、看取りの場面で行なう支援について話し合う。	
(13) 施設実習			6	6	より効果的な研修となることを目的として施設実習を実施する。現場での「ところとからだのしくみと自立に向けた介護」が、どのように展開されているかを理解する。
【生活支援技術演習】 (14) 介護過程の基礎的理解	6		6	6	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> 介護過程の基礎的理解 (演習の実施方法) * グループに分かれて、介護過程の展開（アセスメント、計画立案、実施、評価）について、事例をもとに検討する。
(15) 総合生活支援技術演習	9		9	9	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> 総合生活支援技術演習 (演習の実施方法) 事例を通して、モデルと介助者に分かれて、演習し、具体的な介護内容や介護の留意点について考察する。 * 要介護 4 の方の衣服の着脱、車いすへの移乗、食事・口腔ケアの介助、排泄の介助、入浴の介助 * 要介護 1 の方の衣服の着脱、車いすへの移乗、食事・口腔ケアの介助、排泄の介助、入浴の介助 また、学んできた一連の介護技術を十分活かして、実技演習を行なう。
10 振り返り	4		4	4	(到達目標) 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行なうとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。
(1) 振り返り	3		3	3	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> 研修を通じて学んだこと 根拠に基づく介護についての留意点 (演習の実施方法) * 研修で学んだことについて、グループワークを通して話し合い、整理する。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1		1	1	(講義の内容) <ul style="list-style-type: none"> 継続的に学ぶこと 研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例（0JT、OFF-JT）を紹介。